

マルチメディア
不登校といじめと少年事件の関係について

1.はじめに

いじめにより不登校になってしまったり、いじめが少年事件に発展してしまったりすることがあるが、実際にこれらに何らかの相関があるのか知りたくてこの題材にした。

2.データ

変数名	内容（全て都道府県別）
hu_s	不登校の小学生の割合 不登校の小学生の数/小学生数
hu_c	不登校の中学生の割合 不登校の中学生の数/中学生数
hu_k	不登校の高校生の割合 不登校の高校生の数/高校生数
ij_s	小学生一人当たりのいじめ件数 小学校でのいじめ認知件数/小学生数
ij_c	中学生一人当たりのいじめ件数 中学校でのいじめ認知件数/中学生数
ij_k	高校生一人当たりのいじめ件数 高校校でのいじめ認知件数/高校生数
k_s	少年 1000 人あたりの少年事件の数 少年事件数/少年数（1000 人単位）
s_k	少年 1000 人あたりの少年事件（凶悪犯）の数 少年事件（凶悪犯）数/少年数（1000 人単位） 凶悪犯：殺人、強盗、放火、強制性交等（致死傷を含む）
s_b	少年 1000 人あたりの少年事件（粗暴犯）の数 少年事件（粗暴犯）数/少年数（1000 人単位） 粗暴犯：凶器準備集合、暴行、傷害、脅迫、恐喝
s_s	少年 1000 人あたりの少年事件（窃盗犯）の数 少年事件(窃盗犯) 数/少年数（1000 人単位）
s/z	検挙人員全体のうち少年の割合 少年検挙/検挙人員全体
kenkyo_z_category	人口 1000 人あたりの検挙人員のカテゴリ（総犯罪率と呼ぶ） $x = \text{検挙人数} / \text{県の人口（1000 人単位）}$ として $0.8 \leq x < 1.2 \rightarrow 1, 1.2 \leq x < 1.6 \rightarrow 2, 1.6 \leq x < 2.0 \rightarrow 3$

都道府県別で以下のサイトからデータを作成した

いじめ件数・不登校生徒の数

[https://www.e-stat.go.jp/stat-](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400304&kikan=00400&tstat=000001112655&result_page=1)

[search/files?page=1&toukei=00400304&kikan=00400&tstat=000001112655&result_page=1](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400304&kikan=00400&tstat=000001112655&result_page=1)

生徒数

[https://www.e-stat.go.jp/stat-](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=normal&toukei=00400001&tstat=000001011528&survey=%E5%AD%A6%E6%A0%A1&result_page=1&metadata=1&data=1)

[search/files?page=1&layout=normal&toukei=00400001&tstat=000001011528&survey=%E5%AD%A6%E6%A0%A1&result_page=1&metadata=1&data=1](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=normal&toukei=00400001&tstat=000001011528&survey=%E5%AD%A6%E6%A0%A1&result_page=1&metadata=1&data=1)

人口

[https://www.e-stat.go.jp/stat-](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200524&tstat=000000090001&cycle=7&year=20220&month=0&tclass1=000001011679&tclass2val=0)

[search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200524&tstat=000000090001&cycle=7&year=20220&month=0&tclass1=000001011679&tclass2val=0](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200524&tstat=000000090001&cycle=7&year=20220&month=0&tclass1=000001011679&tclass2val=0)

*少年は 14-19 歳の男女とした。

少年事件とは

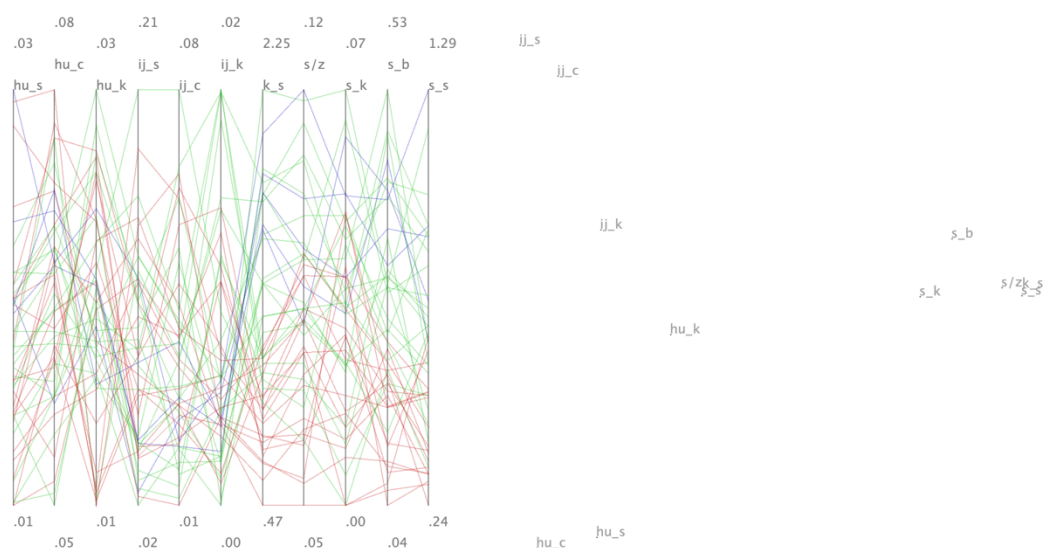
https://www.courts.go.jp/saiban/syurui/syurui_syonen/syonen_jiken/index.html

-犯罪少年

-罪を犯した 14 歳以上 20 歳未満の少年

-なお、少年事件でいう「少年」とは、女子も含んだ表現です。

3.実行結果



Category は

赤： $0.8 \leq x < 1.2 \rightarrow 1$,

黄緑： $1.2 \leq x < 1.6 \rightarrow 2$,

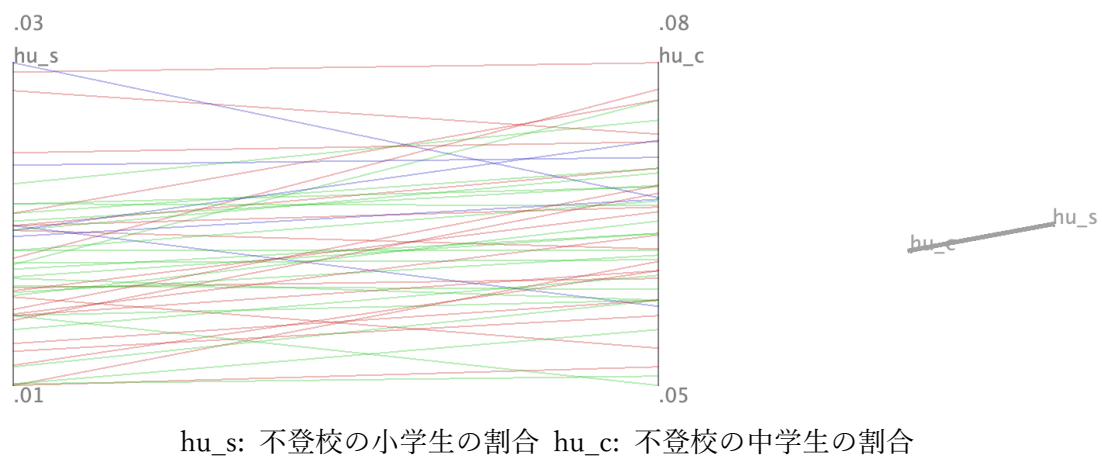
青： $1.6 \leq x < 2.0 \rightarrow 3$

となっている

相関が高いものからみていく

(1) 相関の強さ：4

① 不登校生徒



hu_s と hu_c に正の相関がある

→ 不登校の小学生が多い地域は不登校の中学生が多い

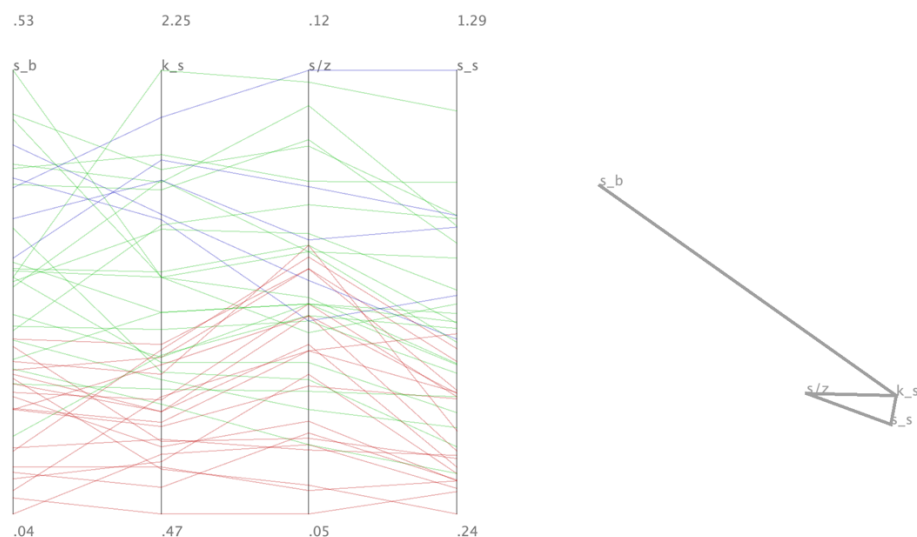
[考察]

小学校で不登校だった子が公立の中学に進学し、クラスメイトが小学校から持ち上がりの子たちばかりでクラスの雰囲気は小学校と変わらず、馴染めずに不登校になってしまう。中学受験したり、引っ越したりして自分のことを知っている同級生が一人もいない中学に進学しても、集団に慣れず中学でも馴染めずに不登校になってしまう
小中一貫で生徒が変わらず復帰するタイミングがわからず、中学でも不登校になってしまう

[category からわかること]

総犯罪率と不登校の数には相関がない。

②少年の犯罪率



s_b: 少年 1000 人あたりの少年粗暴事件の数 k_s: 少年 1000 人あたりの少年事件の数
s/z: 検挙人員全体のうち少年の割合 s_s: 少年 1000 人あたりの少年窃盗事件の数

s_b と k_s に正の相関がある

→少年事件が多いと少年の粗暴事件が多い

k_s と s_s と s/z に正の相関がある

→少年事件が多い地域は、発生した事件に少年が関わっている確率が高く、少年の窃盗事件が多い

[category からわかること]

総犯罪率と少年事件には相関がある

→総犯罪率が高いと少年事件も多い

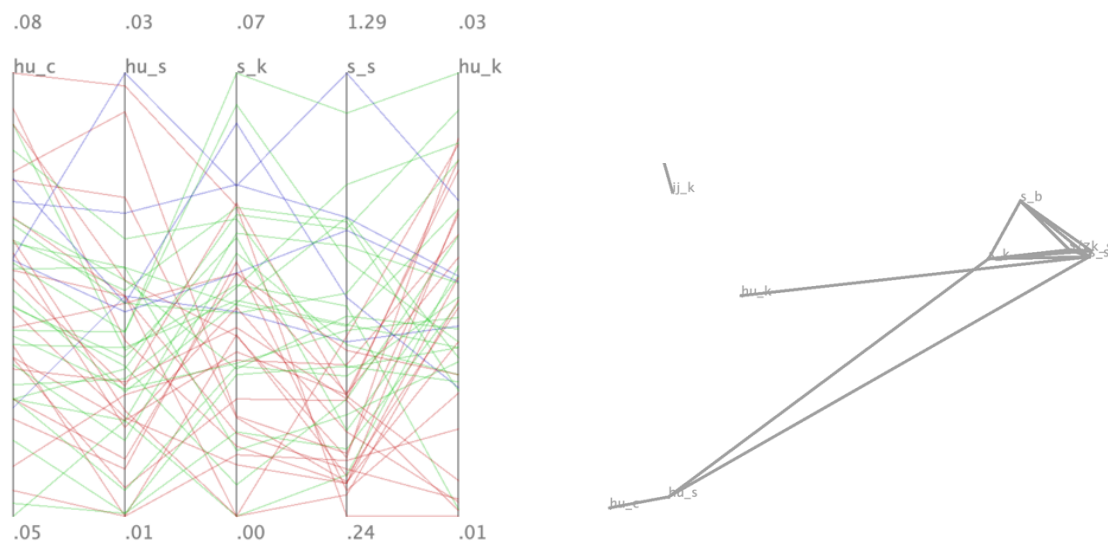
[考察]

総犯罪率が高い、つまり治安が悪い地域では少年の犯罪行為が多い

少年が大人の犯罪行為から見て学んでしまう？

(2)相関の強さ：3

①不登校と少年事件



hu_c: 不登校の中学生の割合 hu_s: 不登校の小学生の割合

s_k: 少年 1000 人あたりの少年凶悪事件の数 s_s: 少年 1000 人あたりの少年窃盗事件の数

hu_k: 不登校の高校生の割合

hu_s,s_k,s_s に正の相関がある

→不登校小学生が多い地域では少年の凶悪事件、窃盗事件が多い

hu_k,s_s に正の相関がある

→不登校高校生が多い地域では少年の窃盗事件が多い

[考察]

少年事件を起こした生徒がそのまま不登校になってしまうのだろうかと考えたが、根拠がないと思い、不登校の原因に関して調べた。

小中の不登校の原因

https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00400304&kikan=00400&tstat=000001112655&cycle=0&tclass1=000001210480&tclass2=000001210481&tclass3=000001210485&stat_infid=000040108364&result_page=1&tclass4val=0 [1]

高校の不登校の原因

https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00400304&kikan=00400&tstat=000001112655&cycle=0&tclass1=000001210480&tclass2=000001210481&tclass3=000001210486&stat_infid=000040108385&result_page=1&tclass4val=0

令和４年の小学生の不登校の原因は以下の通りだ

		不登校児童生徒数	学校に係る状況			学業の不振	進路に係る不安	ヘクラブ活動・部活動等	学校の問題のきまり等をめぐ	入学・転編入学・進級	家庭に係る状況			本人に係る状況		左記に該当なし
			いじめ	をいじめを除く友人関係	教職員との関係をめぐ						な家庭の変化の生活環境の急激	親子の関わり方	家庭内の不和	そ生活リズムの乱れ・あ	無気力・不安	
主たるもの	(人)	193,936	356	20,598	1,706	11,169	1,837	839	1,315	7,389	4,343	9,441	3,232	20,790	101,300	9,621
主たるもの	(%)	***	0.2	10.6	0.9	5.8	0.9	0.4	0.7	3.8	2.2	4.9	1.7	10.7	52.2	5.0
主たるもの以外に当てはまるもの	(人)	***	134	8,189	1,435	14,097	2,592	1,127	1,285	2,959	2,465	10,654	3,195	11,608	16,481	***
主たるもの以外に当てはまるもの	(%)	***	0.1	4.2	0.7	7.3	1.3	0.6	0.7	1.5	1.3	5.5	1.6	6.0	8.5	***

「主たるもの」では無気力、不安によるものが５割以上だった。無気力、不安な生徒が犯罪を犯すとは考えにくい。他の可能性を考えてみるとまず、「生活リズムの乱れ、あそび、非行」(12.6%)が目に入ってくる。「主たるもの以外に当てはまるもの」の中では２番目に割合が高い。この項目が一番少年犯罪と不登校との関連性が高いのではないかと考えられる。(生活リズムの乱れを除くと、)遊びや非行に走り犯罪を犯してしまう。結果、不登校小学生が多い地域は少年の犯罪率が高いという関係になったと考えられる。

また、「生活リズムの乱れ、あそび、非行」と同程度の割合なのが、「親子の関わり方」(12.1%)だ。主な原因以外に当てはまるものの中では一番割合が高い。家庭環境と少年事件には関係がある可能性が考えられる。

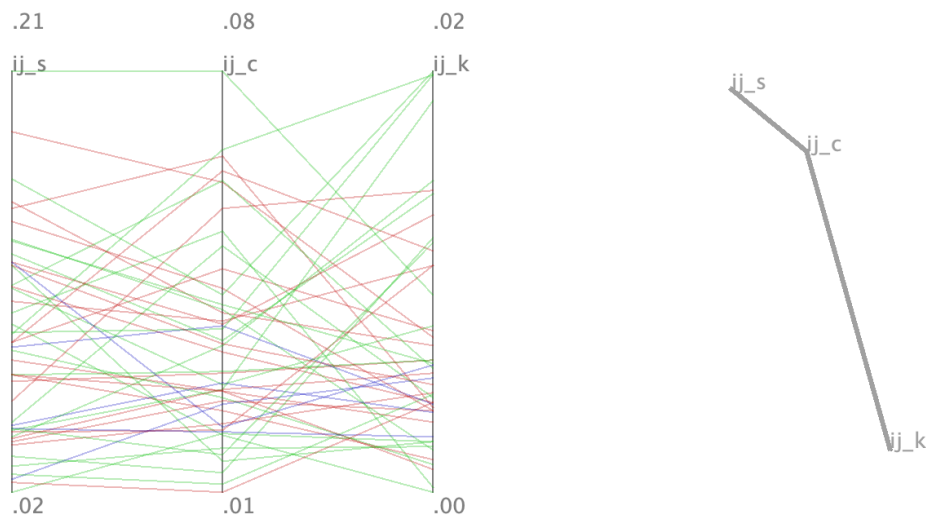
高校生の不登校の原因

		不登校生徒数	学校に係る状況			学業の不振	進路に係る不安	ヘクラブ活動・部活動等	学校の問題のきまり等をめぐ	入学・転編入学・進級	家庭に係る状況			本人に係る状況		左記に該当なし
			いじめ	をいじめを除く友人関係	教職員との関係をめぐ						な家庭の変化の生活環境の急激	親子の関わり方	家庭内の不和	そ生活リズムの乱れ・あ	無気力・不安	
主たるもの	(人)	47,187	118	5,029	256	3,139	2,307	487	458	4,273	753	1,412	874	6,411	17,963	3,707
主たるもの	(%)	***	0.3	10.7	0.5	6.7	4.9	1.0	1.0	9.1	1.6	3.0	1.9	13.6	38.1	7.9
主たるもの以外に当てはまるもの	(人)	***	26	995	175	2,079	1,160	287	249	825	293	1,148	578	1,673	2,909	***
主たるもの以外に当てはまるもの	(%)	***	0.1	2.1	0.4	4.4	2.5	0.6	0.5	1.7	0.6	2.4	1.2	3.5	6.2	***

小学生の不登校の原因と比べ「無気力、不安」の割合が減り、「生活リズムの乱れ、あそび、非行」が増えている。結果、不登校の高校生が多い地域は少年の犯罪率が高いという関係になった可能性が考えられる。

ただ、不登校生徒数と少年事件には相関があることは確かだが、因果関係があるかは確かではないことに留意したい。

②いじめ



ij_s: 小学生一人当たりのいじめ件数 ij_c: 中学生一人当たりのいじめ件数

ij_k: 高校生一人当たりのいじめ件数

ij_s と ij_c、ij_c と ij_k に正の相関がある

→小学校でいじめが多い地域は中学でもいじめが多い

中学校でいじめが多い地域は高校でもいじめが多い

小学生のいじめと高校生のいじめに強い相関関係はない

[考察]

公立の学校にそのまま進学し、もしくは小中一貫で小学校の権力の構図がそのまま引き継がれるため、小学校でいじめが多い地域は中学でもいじめが多い。

中高一貫で中学校の権力の構図がそのまま引き継がれるため、中学校でいじめが多い地域は高校でもいじめが多い。

小学生のいじめと高校生のいじめに強い相関関係はないのは小学校での権力構図が高校まで引き継がれることはないから。どこかのタイミングで権力構図が変わることが多い。

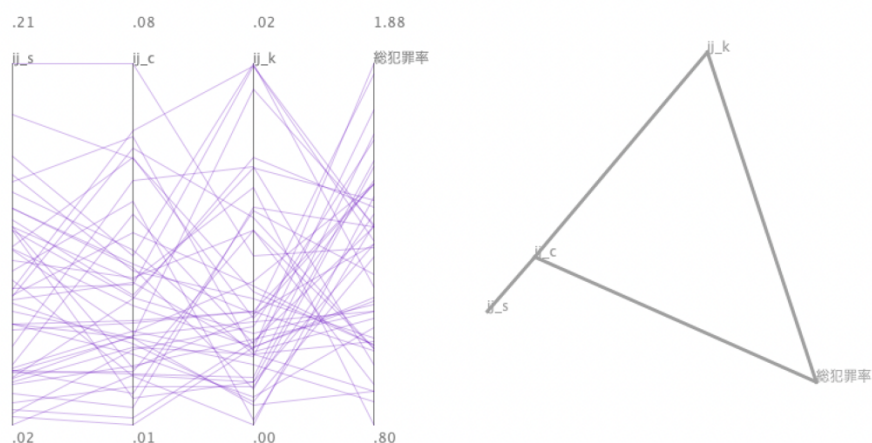
[category からわかること]

線の色で綺麗に分けられてはないので、総犯罪率といじめに強く相関があるわけではないが、総犯罪率が3のところは中学、高校のいじめの下1/3に集中している。

治安が悪い地域の方がいじめが少ないのだろうか。

色だけだと分かりにくいので、いじめの項目+総犯罪率の数値のみで相関を見てみる。

分析結果

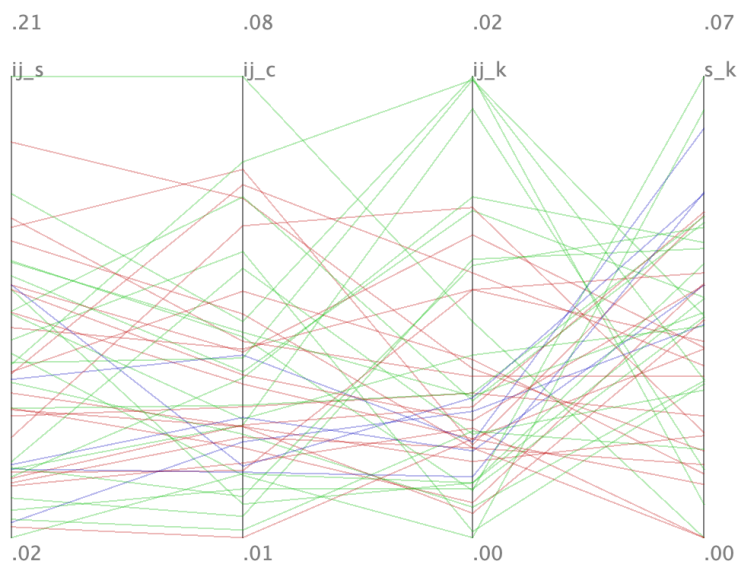


総犯罪率と中学と高校のいじめに弱い負の相関関係が見られた。やはり、意外にも治安が悪い場所では中学と高校でのいじめが少ない傾向があるようだ。次の (3)でいじめと少年事件に負の相関があること、(1)-②で総犯罪率と少年事件に正の相関があることから、中高のいじめに弱い負の相関関係が見られたのだと考えられる。

一方、小学校のいじめと総犯罪率には相関が見られなかった。治安と小学生のいじめに関連性は無いようだ。

(3)相関の強さ：2

①いじめと少年凶悪事件



ij_s: 小学生一人当たりのいじめ件数 ij_c: 中学生一人当たりのいじめ件数

ij_k: 高校生一人当たりのいじめ件数 s_k: 少年 1000 人あたりの少年凶悪事件の数

ij_k と s_k に負の相関
→いじめが多い高校は少年事件（凶悪）が少ない

[考察]

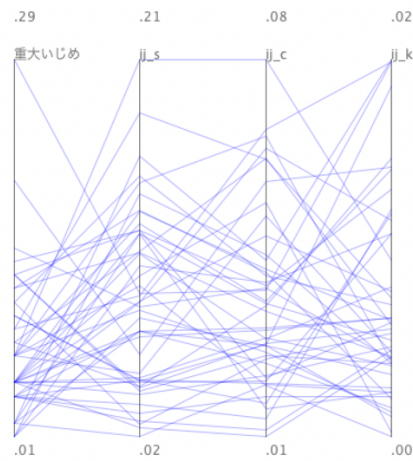
ストレスのはけ口を同級生に向けるか、犯罪に向けるかの違いだと考えた。
いじめの重大事態との相関から高校生のいじめと少年凶悪事件との関係を考える。
新たなデータとして、
都道府県別のいじめの重大事態のデータ

https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00400304&kikan=00400&tstat=000001112655&cycle=0&tclass1=000001210480&tclass2=000001210481&tclass3=000001210483&tstat_infid=000040108327&result_page=1&tclass4val=0

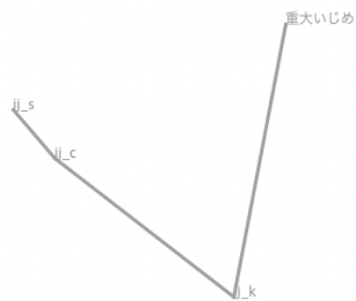
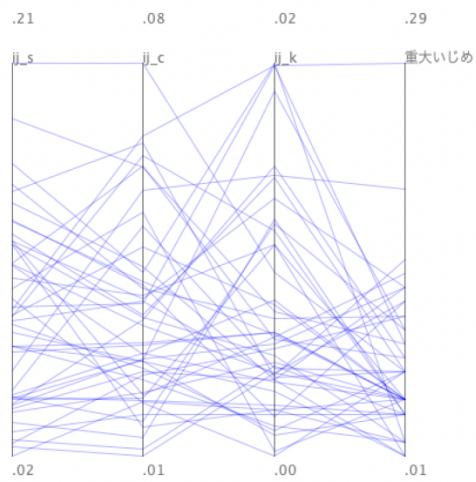
を用いる。
ここで、

変数	内容（都道府県別）
hu_c	小学生一人当たりのいじめ件数 小学校でのいじめ認知件数/小学生数
hu_s	中学生一人当たりのいじめ件数 中学校でのいじめ認知件数/中学生数
hu_k	高校生一人当たりのいじめ件数 高校校でのいじめ認知件数/高校生数
重大いじめ	1,000 人当たりの「重大事態」発生件数 第 1 号「重大事態」とは、法第 28 条第 1 項第 1 号に規定する「いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき」。第 2 号「重大事態」とは、同第 2 号に規定する「いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき」。（上記データの（注 3）より）

これらのデータを用いて hidden を実行すると

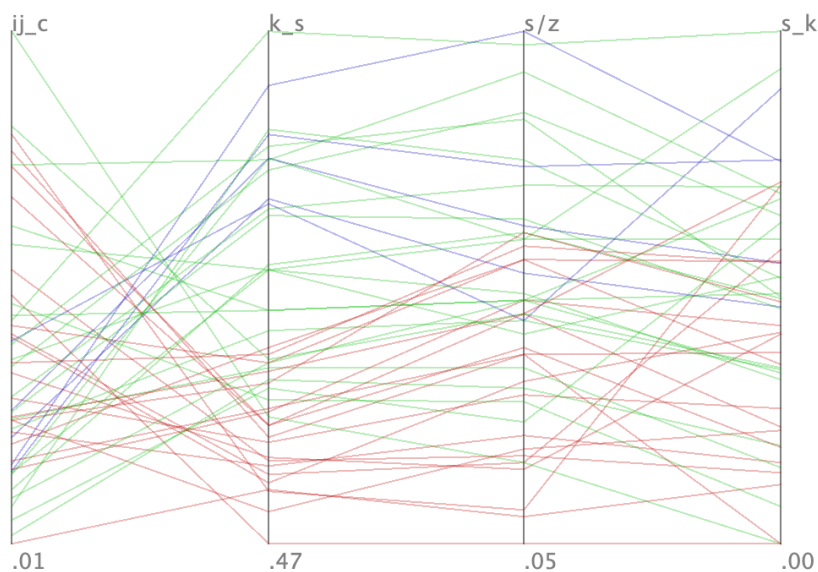


スライダーを上げる



高校生のいじめと 1000 人あたりの重大事態の発生件数に正の相関があることがわかる。当初の予想通り、凶悪事件を行うような少年が実際に凶悪事件を起こすのか、いじめを行うのかで別れることにより負の相関が出ている可能性がある。

②中学いじめと少年事件



ij_c: 中学生一人当たりのいじめ件数 k_s: 少年 1000 人あたりの少年事件の数
s/z: 検挙人員全体のうち少年の割合 s_k: 少年 1000 人あたりの少年凶悪事件の数

ij_c, k_s に負の相関

→いじめが多い中学は少年事件が少ない

[考察]

(3)-①同様、ストレスのはけ口を同級生に向けるか、犯罪に向けるかで負の相関が生まれたのかもしれない。

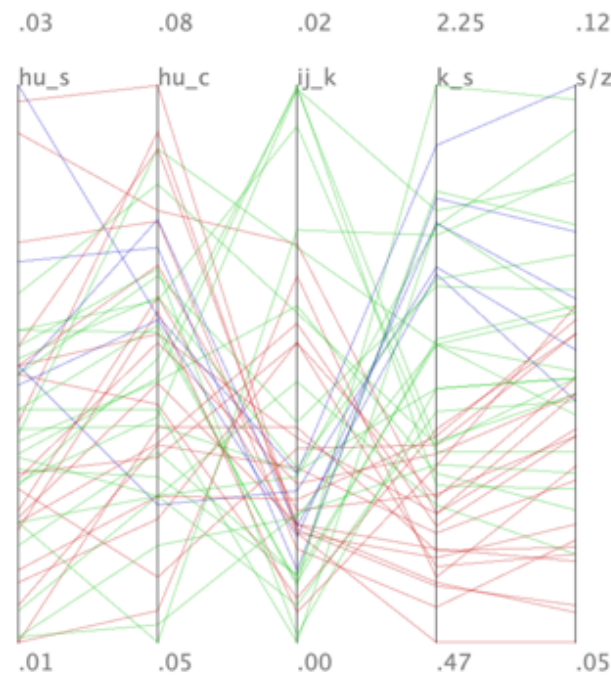
もしくは「いじめが学校に知られて、学校から注視されているので犯罪行為など目立った行動ができない。あるいは犯罪行為が明らかになって、警察、学校から（学校にも警察から連絡がいくと考えられる）注視されているのでいじめをするのは困難。」という可能性も考えられる。

[category からわかること]

カテゴリで赤い線は ij_c から k_s で下がって青い線は ij_c から k_s で上がっている。黄緑の線はバラバラだが、カテゴリとの相関があるように見える。これは(1)-②と(2)-②からこのような結果が出るのは明らか。

(4)相関の強さ：1

①不登校といじめ



hu_s: 不登校の小学生の割合 hu_c: 不登校の中学生の割合

ij_k: 高校生一人当たりのいじめ件数 k_s: 少年 1000 人あたりの少年事件の数

s/z: 検挙人員全体のうち少年の割合

hu_c と ij_k に負の相関がある

→不登校の中学生が多いと高校のいじめが少ない

[考察]

どうしてこのような結果が出たのか、中学生の不登校の原因を調べる。データ元は[1]と同様。

		不登校児童生徒数	学校に係る状況							家庭に係る状況				本人に係る状況		
			いじめ	いじめをめぐる除く友人関係	教職員との関係	学業の不振	進路に係る不安	等々への不適応、部活動	学校のきまり等をめぐる問題	入学時の不適応、転編入学、進級時の不適応	家庭の変化、生活環境の急変	親子の関わり方	家庭内の不和	あそび、リズム、非行の乱れ	無気力、不安	左記に該当なし
主たるもの	(人)	193,936	356	20,598	1,706	11,169	1,837	839	1,315	7,389	4,343	9,441	3,232	20,790	101,300	9,621
主たるもの	(%)	***	0.2	10.6	0.9	5.8	0.9	0.4	0.7	3.8	2.2	4.9	1.7	10.7	52.2	5.0
主たるもの以外にも当てはまるもの	(人)	***	134	8,189	1,435	14,097	2,592	1,127	1,285	2,959	2,465	10,654	3,195	11,608	16,481	***
主たるもの以外にも当てはまるもの	(%)	***	0.1	4.2	0.7	7.3	1.3	0.6	0.7	1.5	1.3	5.5	1.6	6.0	8.5	***

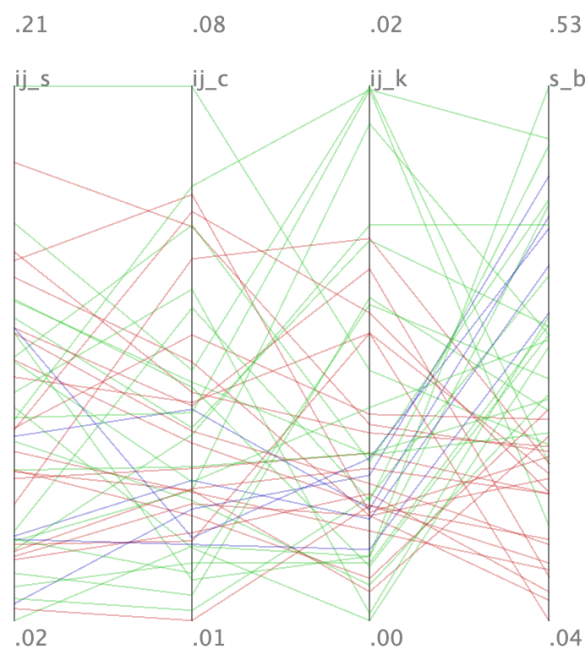
不登校生徒は高校の学習についていくのに大変でいじめに関与することがない？いじめが原因で不登校になった生徒が誰かをいじめることがない、いじめになる前にいじめられそうな子を助けている？と考えたが、中学の不登校の原因としていじめは 0.2% しかなかった。そのため別の原因が考えられる。

上の表を見るとやはり中学でも「無気力、不安」の割合が一番高い。無気力な状態だった人が高校生になって同級生をいじめるとは考えにくい。

次に、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」が目に入る。主たるものでは 10.6% で 3 番目に割合が高い。友人関係で辛いことがあったことで、濃い人間関係を構築しない、人付き合いに慎重になっている可能性がある。

また、中学で不登校の原因が学業不振でなくとも高校になると学習が難しくなるので、「登校生徒は高校の学習についていくのに大変でいじめに関与することがない」は可能性として考えられる。

②いじめと少年粗暴事件



ij_s: 小学生一人当たりのいじめ件数 ij_c: 中学生一人当たりのいじめ件数

ij_k: 高校生一人当たりのいじめ件数 s_b: 少年 1000 人あたりの少年粗暴事件の数

ij_k と s_b には負の相関がある

→高校のいじめが多いと少年事件（粗暴）が少ない

[考察]

小中高のいじめの態様に関して調べた。

https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00400304&kikan=00400&tstat=000001112655&cycle=0&tclass1=000001210480&tclass2=000001210481&tclass3=000001210483&stat_infid=000040108308&result_page=1&tclass4val=0

	小学校	小学校	中学校	中学校	高等学校	高等学校
	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比
	(件)	(%)	(件)	(%)	(件)	(%)
冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	311,405	56.4	69,053	62.0	9,241	59.4
仲間はずれ、集団による無視をされる。	67,196	12.2	10,027	9.0	2,478	15.9
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	141,703	25.7	15,913	14.3	1,305	8.4
ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	37,370	6.8	6,181	5.5	467	3.0
金品をたかられる。	4,880	0.9	986	0.9	331	2.1
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	30,543	5.5	5,524	5.0	675	4.3
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	57,057	10.3	9,439	8.5	1,082	7.0
パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	9,690	1.8	11,404	10.2	2,564	16.5
その他	25,351	4.6	3,931	3.5	1,175	7.5
認知件数	551,944	***	111,404	***	15,568	***

この項目の中でおそらく暴行にあたるのが「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。」「ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。」であるが、これらは小学校→中学校→高校と成長するほど件数、割合が減っている。一方、SNS での誹謗中傷が増えている。

粗暴の一つ、「脅迫」に関しては「金品をたかられる。」「金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。」「嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。」が該当する。「金品をたかられる。」以外は成長するほど割合が減っている。

ストレスの発散方法の違いが相関に現れたように見えたが、そもそもいじめを行う高校生の中で粗暴をする割合が減っているのも、高校生のいじめと少年粗暴事件に負の相関が見られたと考えられる。

4.まとめ・感想

予想では不登校といじめと少年事件は全て正の相関があると思っていた。意外にも「不登校・少年事件⇔いじめ」という結果になった。

いじめに関しては、都道府県が把握しているものだけになってしまうので実際の件数はそれ以上あるだろうし、明るみになるようないじめをおこなっている生徒が多い県もあればなかなか学校が把握できないようないじめをおこなっている生徒が多い県もあると思うので実際のいじめ傾向はまた別になるかもしれないと感じた。

考察で不登校生徒と少年事件との関連性を考察するときに苦勞した。ただ、事件を起こしたから不登校になったと結論づけるのは非常に危ないのでどのように考察を終わらせればいいのか悩んだ。

考察をしていく中で不登校の原因に関しても調べたが、いじめが原因だと回答した生徒が小中高全てで1%以下だった。「1.はじめに」で書いたようにいじめと不登校はもっと関わりがあると思っていたのだが、不登校の原因の多くは無気力、不安が原因であったことに驚いた。

不登校の生徒数といじめの発生率はどれだけ周りの環境に左右されるのかに関して興味があるので少年事件以外の家庭環境や娯楽施設数、都道府県の教育への関心度などいろいろな角度から分析してみたいと感じた。